

症例研究発表

テーマ: ストーマ造設後の難治性下痢に伴う皮膚障害の看護

発表者: 右田病院3階看護師

I 患者紹介

◆ O氏 男性 60代

◆ 診断名：直腸癌

◆ 入院月日：H21,10/1～H22,1/28
H22,3/11～H22,4/16

▪ 家族構成：長女、甥との3人暮らし

▪ 職業：飲食業（自営）

▪ 既往歴：17年前 突発性難聴
2年前 痛風

Ⅱ 看護目標

◆ 術前省略

◆ 術後：10/22～11/18

①術後合併症を起こさず、全身状態の安定が保て、早期離床ができる。

11/18～12/10

②ストーマの受け入れができ、家族の介助なくストーマパックが外せる。

③家族とともに退院を思い描くことができ、クリスマスまでに退院することができる。

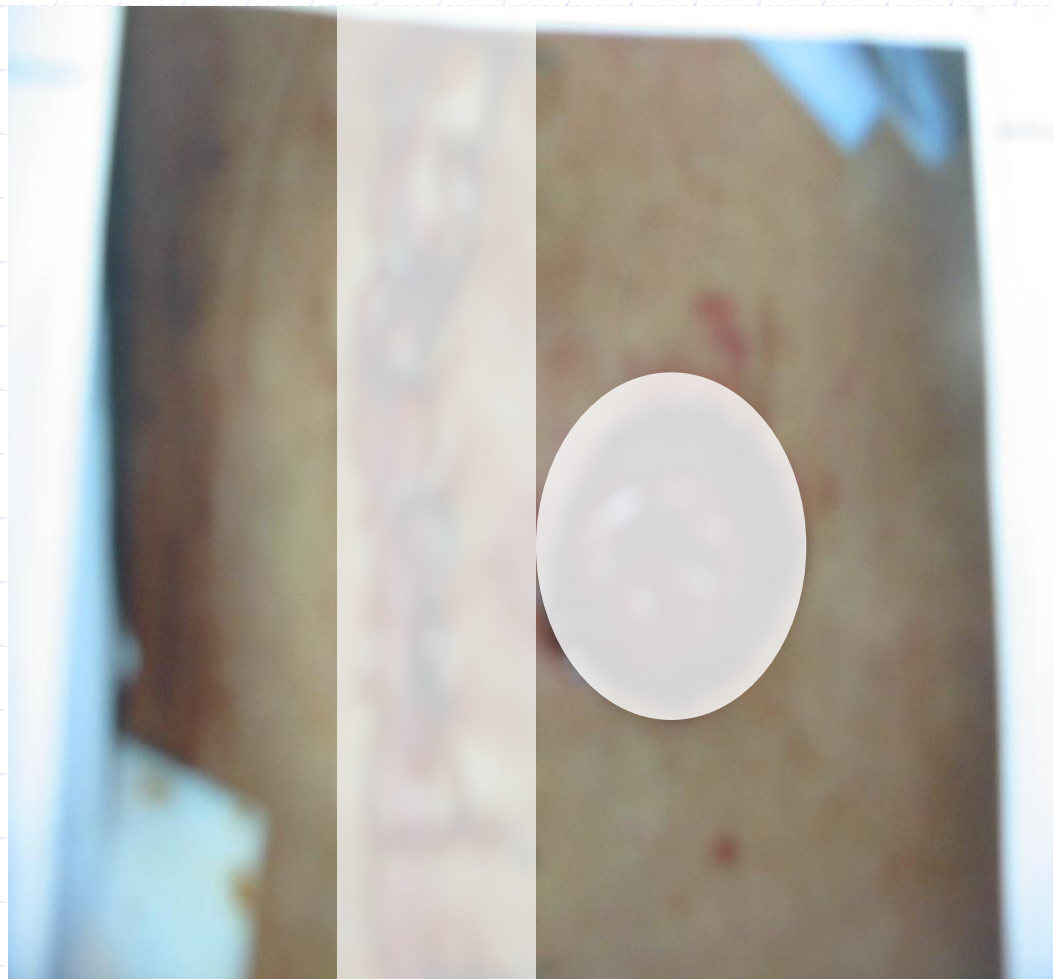
12/10～1/28

④ストーマ周囲のただれが改善し、ストーマパックの指導が受けられる。

10/22 直腸切除 尿管浸潤 ストーマ造設術 を受ける

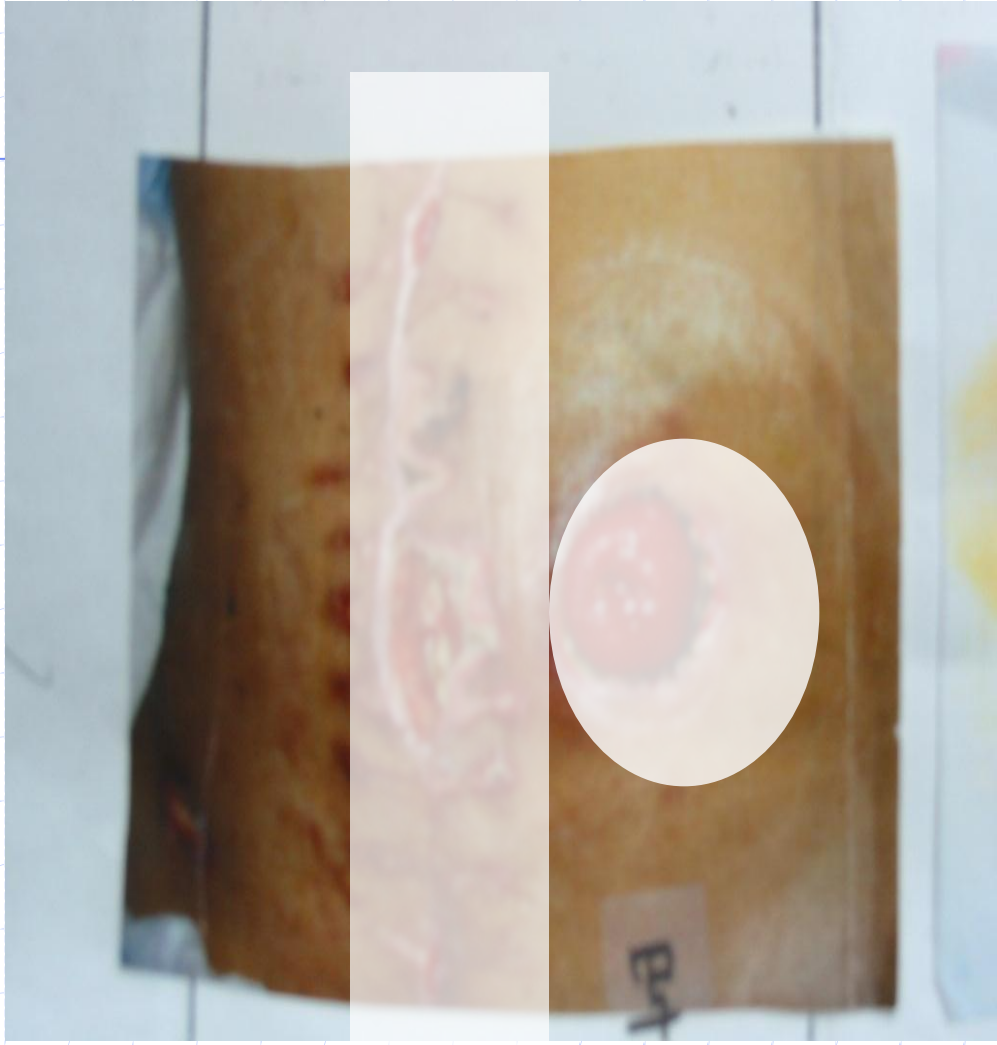
- ◆ 術後2日目には、当初ストーマ造設は決定的でなかったため、術後造設されたことを知った患者本人は「ショック」だと嘆く。
- ◆ 表情は創痛もあることから、術前に見られた笑顔はなかった。
- ◆ 術前の体力低下に加え、創痛によりADLの拡大が遅延、合併症を起こす可能性が大きいと思われたが、しかし、起こることはなかった。

◆ ストーマからの排便により、正中創への便汚染を度々引き起こしていた。



11/2~11/8(術後11~17日目)

- ◆患者のストーマへの関心は少ないように思われた。ADLは拡大し、食事が開始される。
- ◆正中創の便汚染により、潰瘍形成の出現があった。これは、ストーマの9:05方向から便が多く、貯留しやすい状態が原因だった。

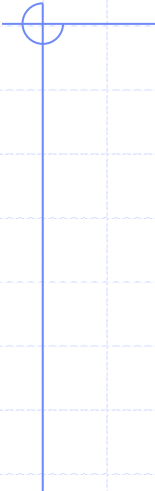
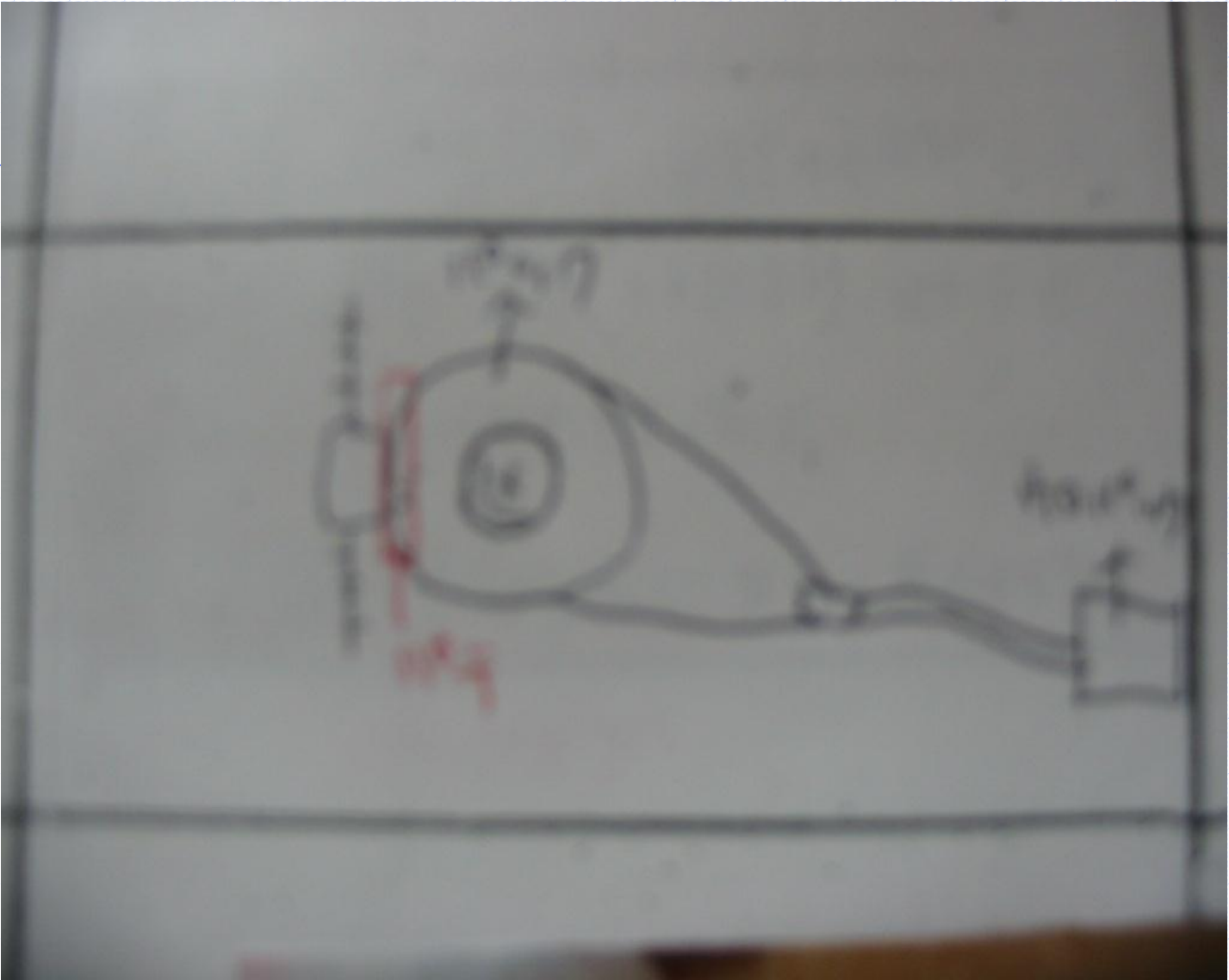


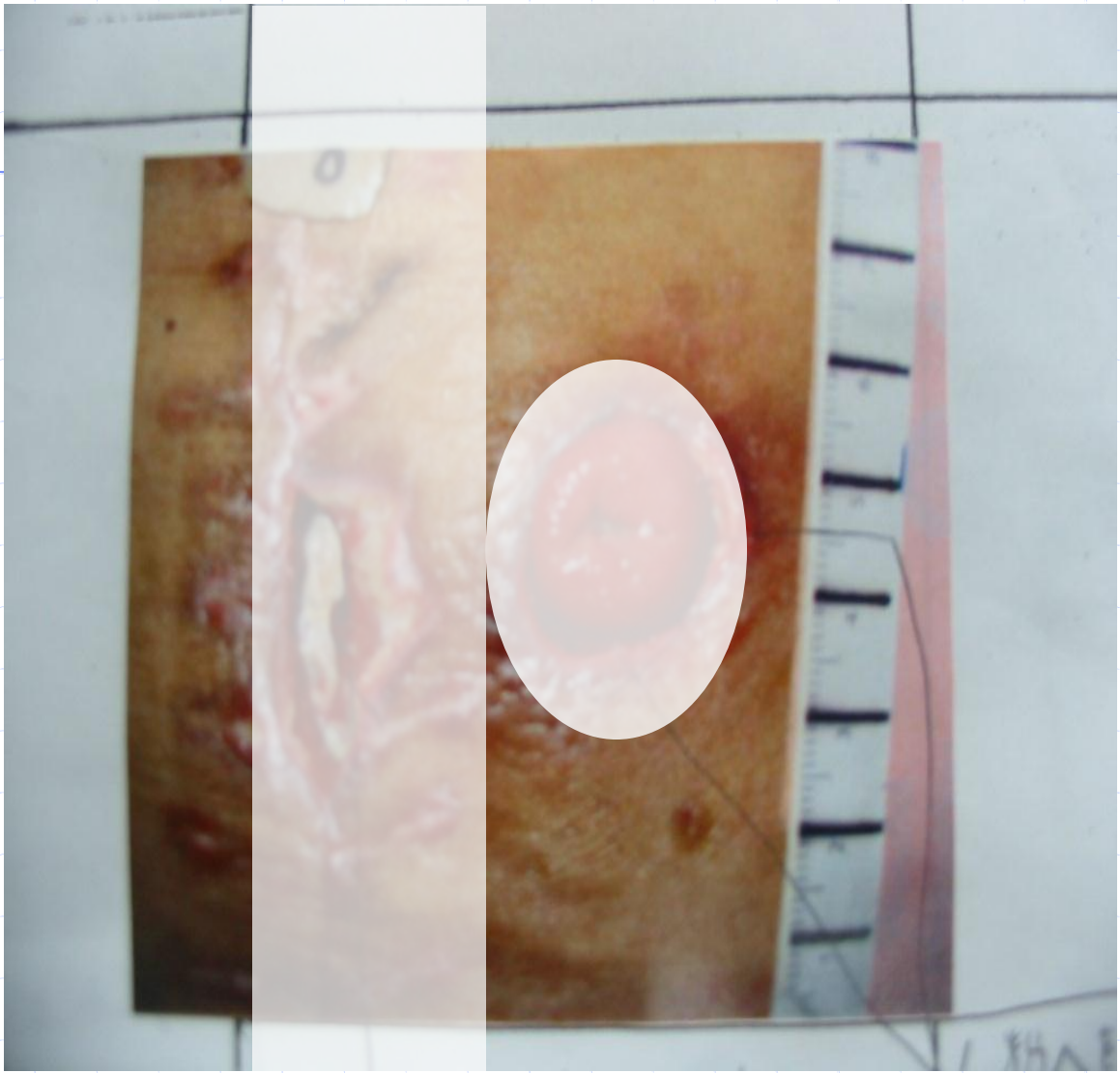
◆ 11/9~12/6 (術後18~45日目)

◆ ADLの自立、便の性状改善のため内服薬開始する。

◆ 便にて汚染時や、ストーマパックを洗浄する際にはナースコールするが、患者の関心は薄い。

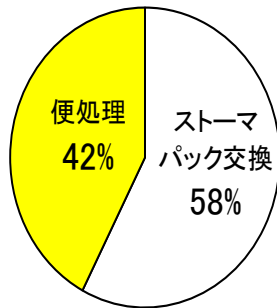
◆ ストーマパックの工夫(フリンジの強度・貼り方・ドレナージ等)を行う。



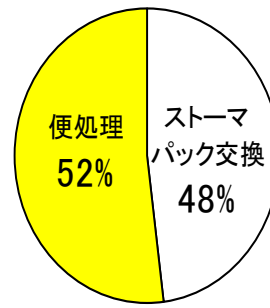


ストーマ便処理割合

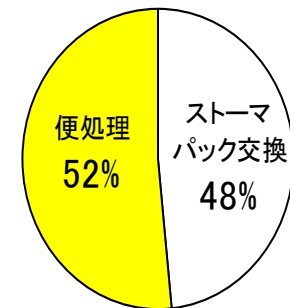
10時～17時



17時～2時

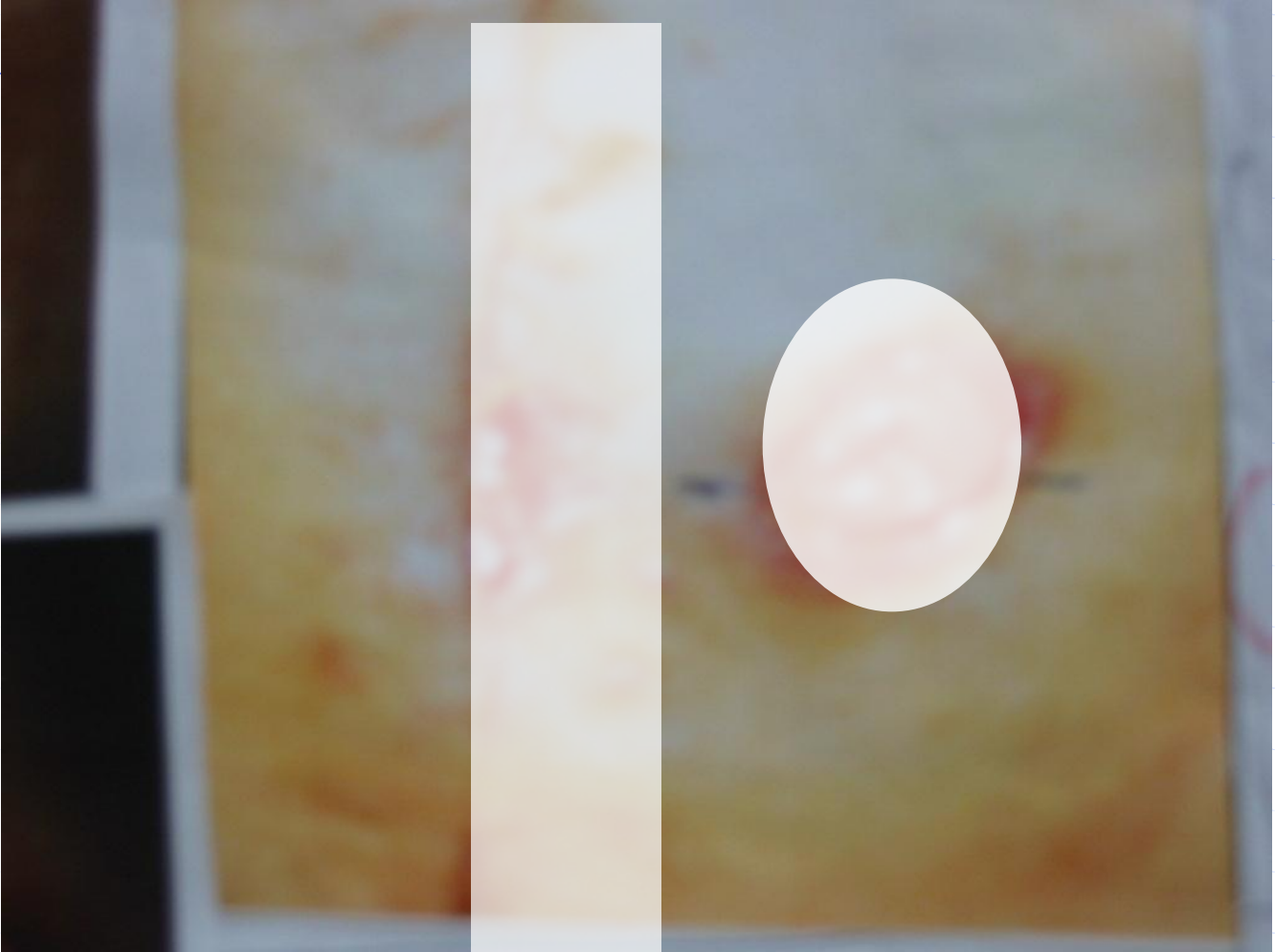


2時～10時



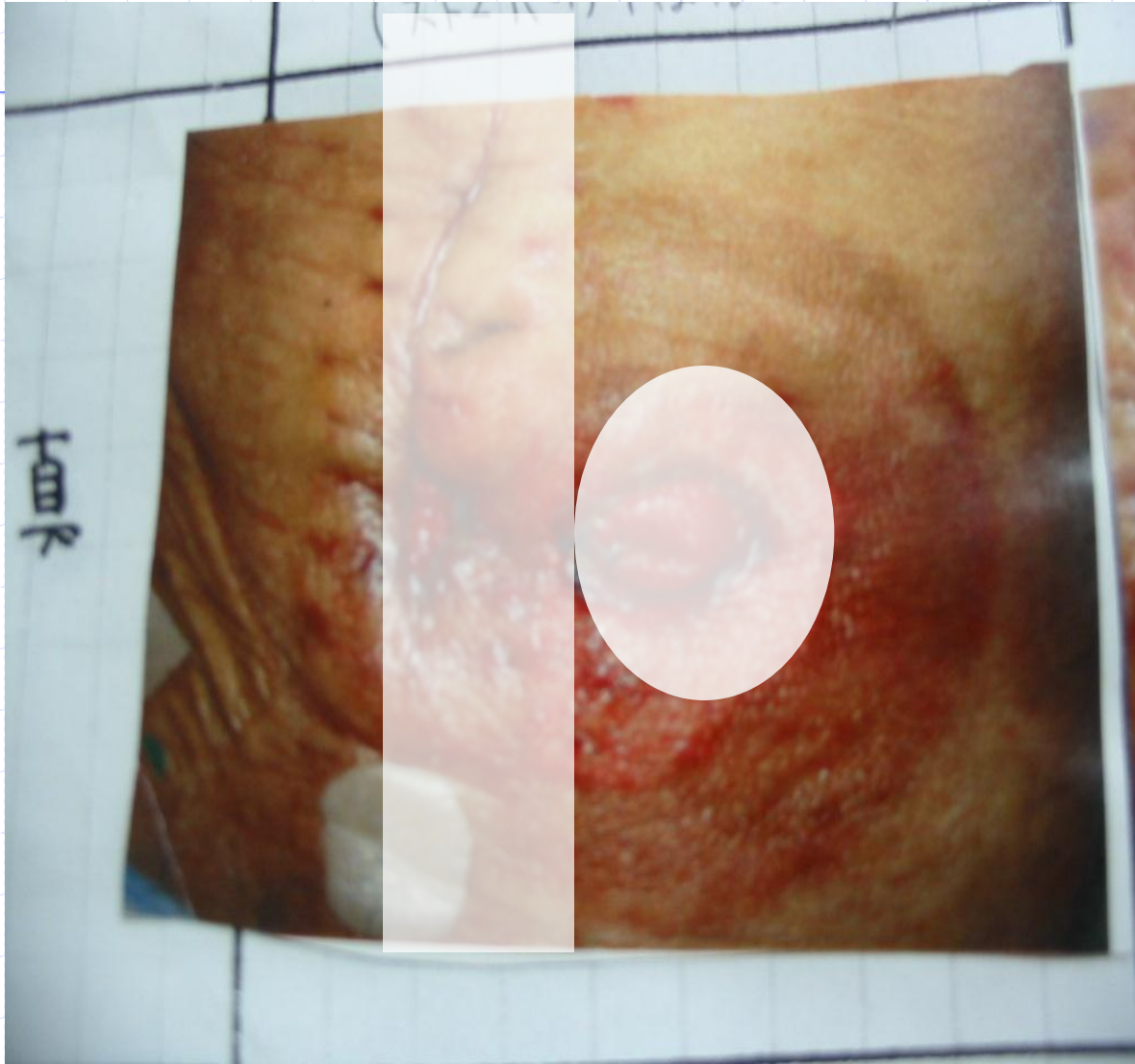
◆最終的に・・・

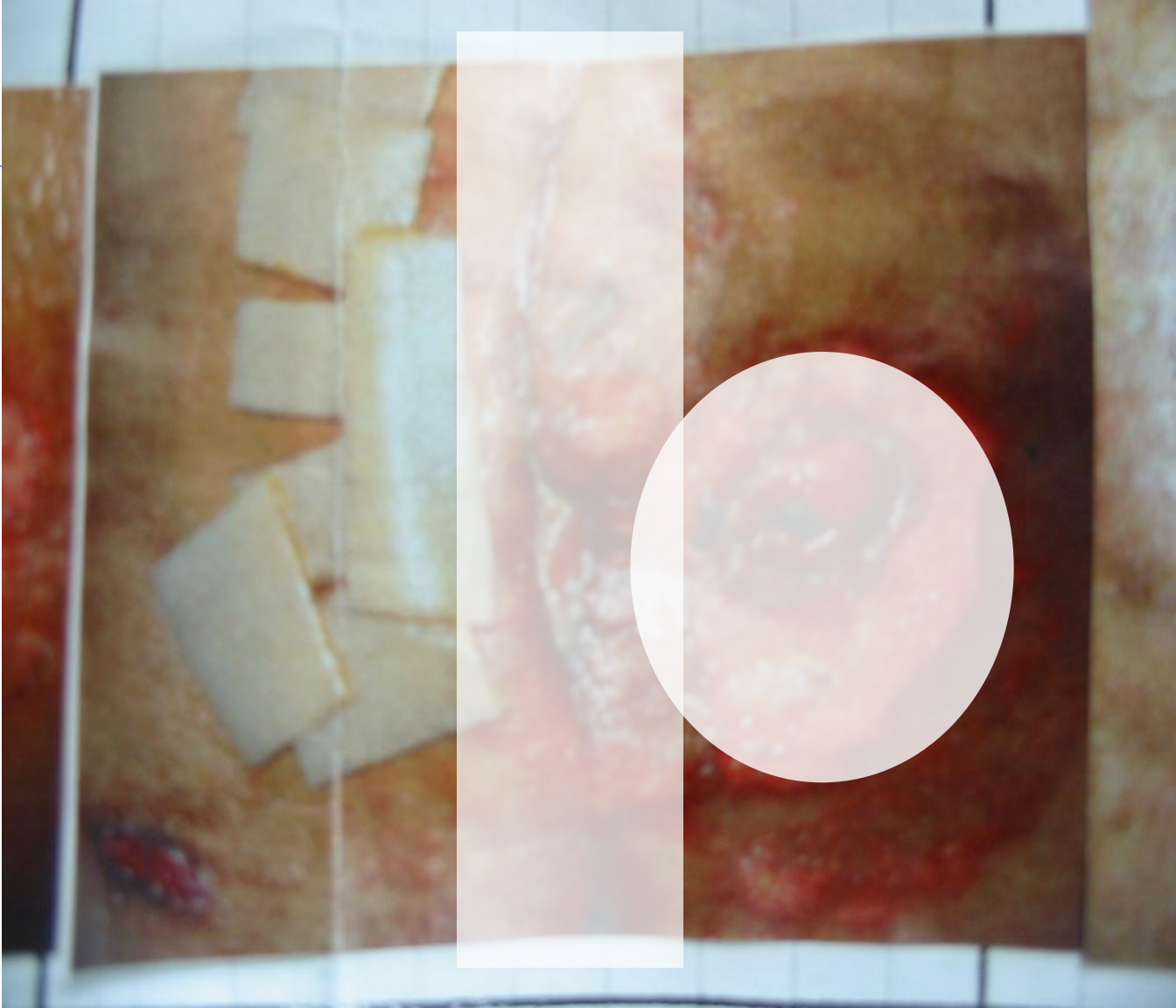
生理食塩水洗浄→乾ガーゼで水分をふき
取る→潰瘍部に切ったガーゼ→ドレッシン
グ材→ストーマパック



12/7~12/30 (術後46~69日)

- ◆ 目標②の看護計画を立案し、退院に向けて援助していくよう設定する。
- ◆ 退院に向けての不安言動あったが、表情は嬉しそうに笑顔が見られた。
- ◆ ストーマ周囲のただれが出現し、ストーマパック貼布困難となり、ガーゼ保護となる。





- ◆ただれの疼痛は強く、処置に対し苦痛を訴えた。苦痛により、表情は暗く、ふさがちとなり感情失禁がみられた。
- ◆アソシエイトナースの頻繁な交代により、処置内容の多少の違いがあった。

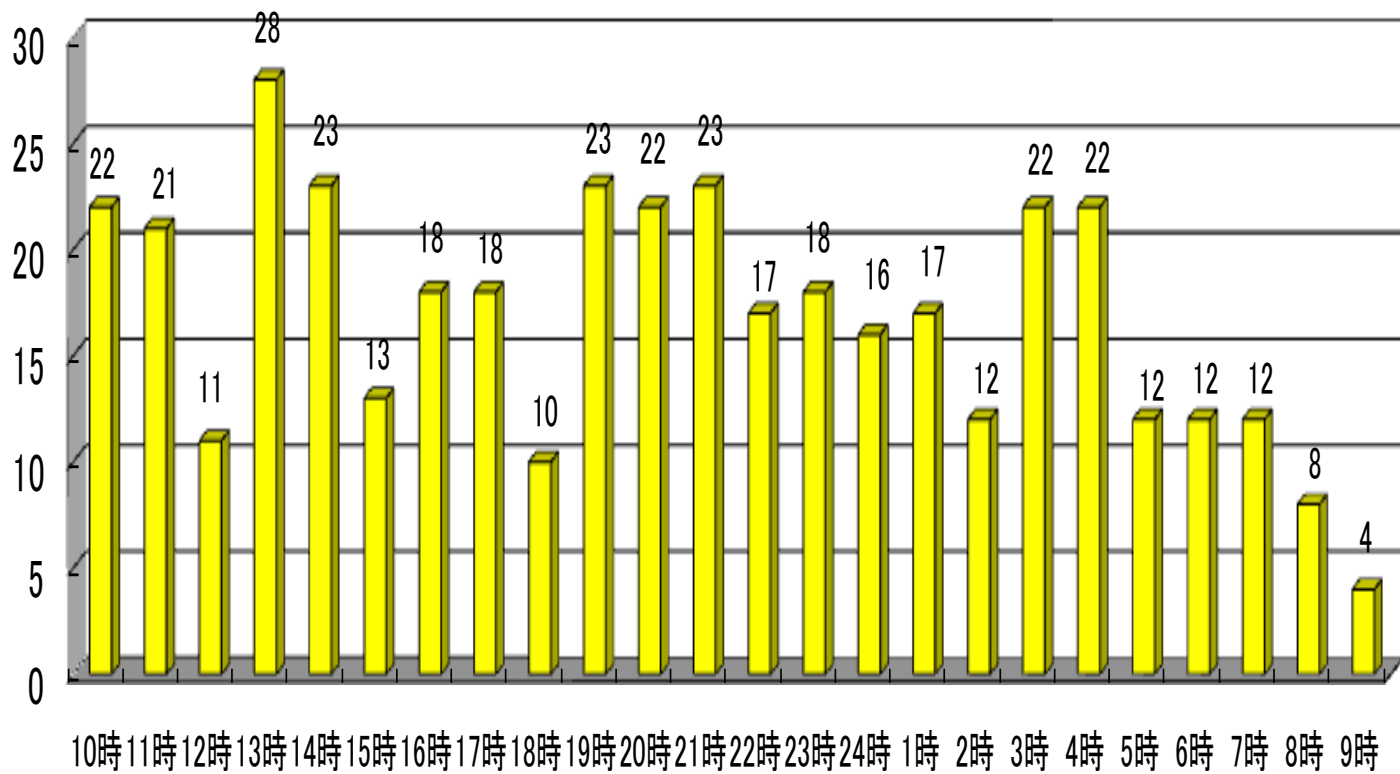
ストマチェックリスト

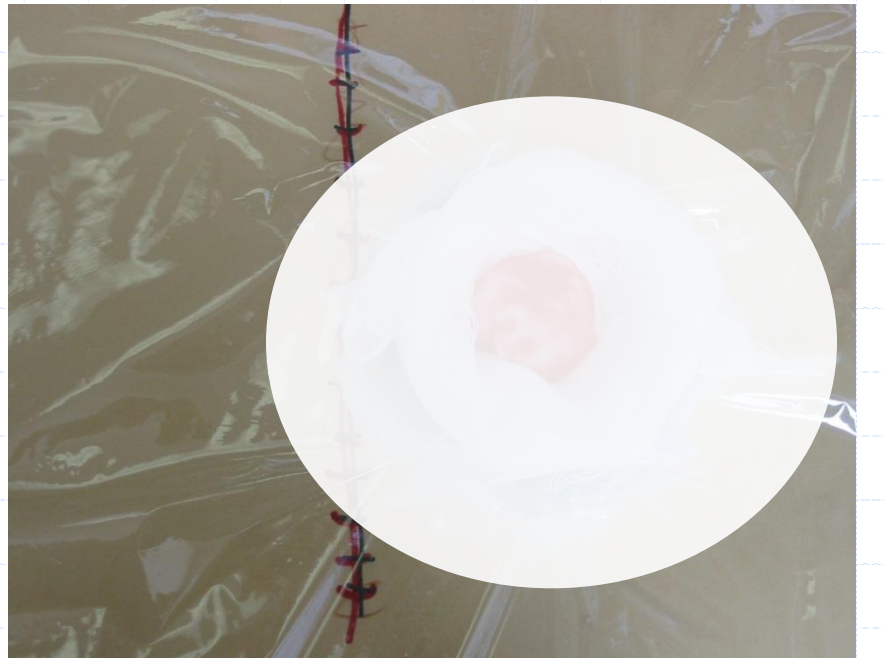
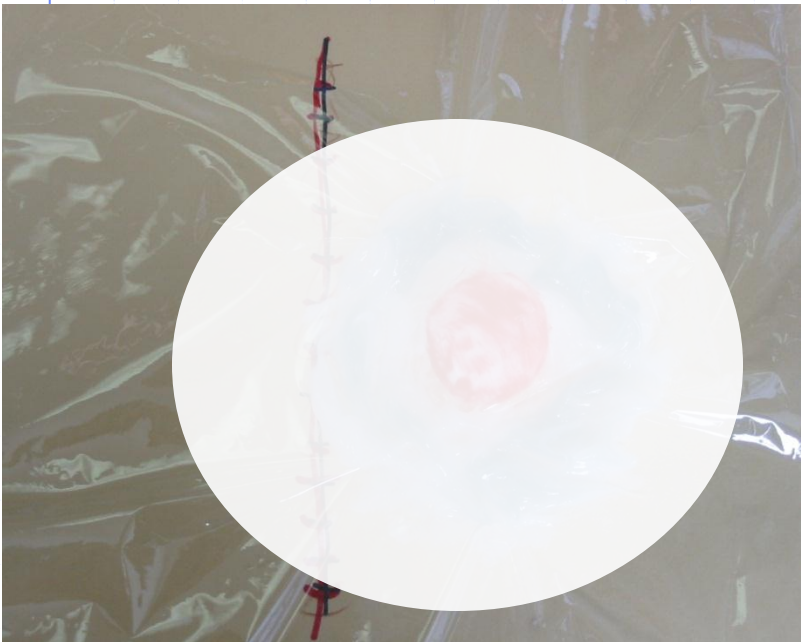
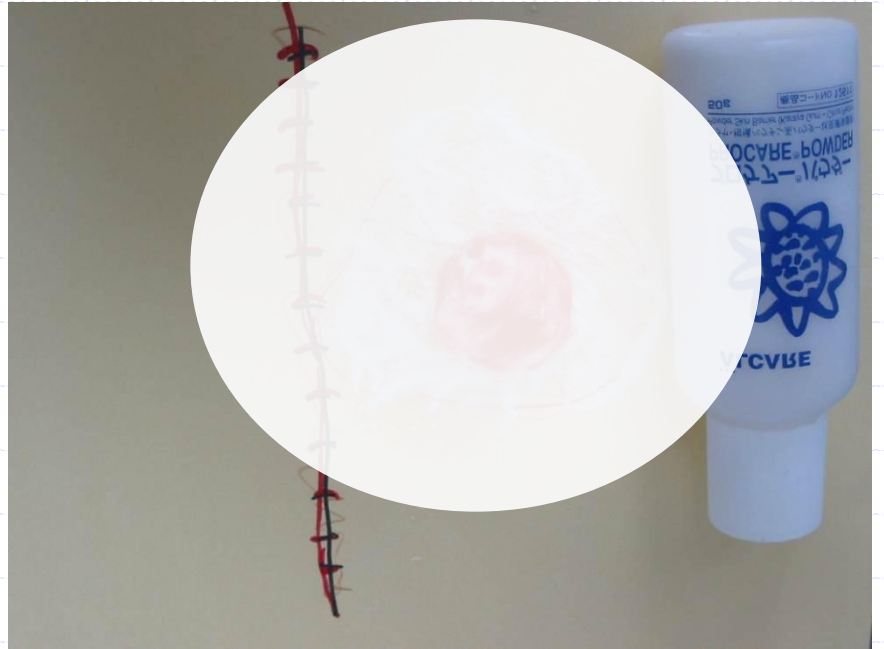
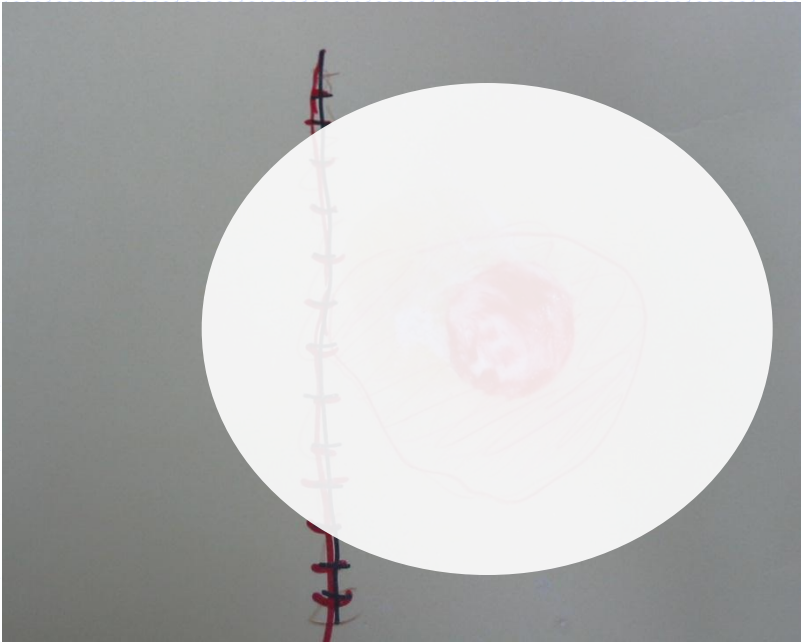
NG1

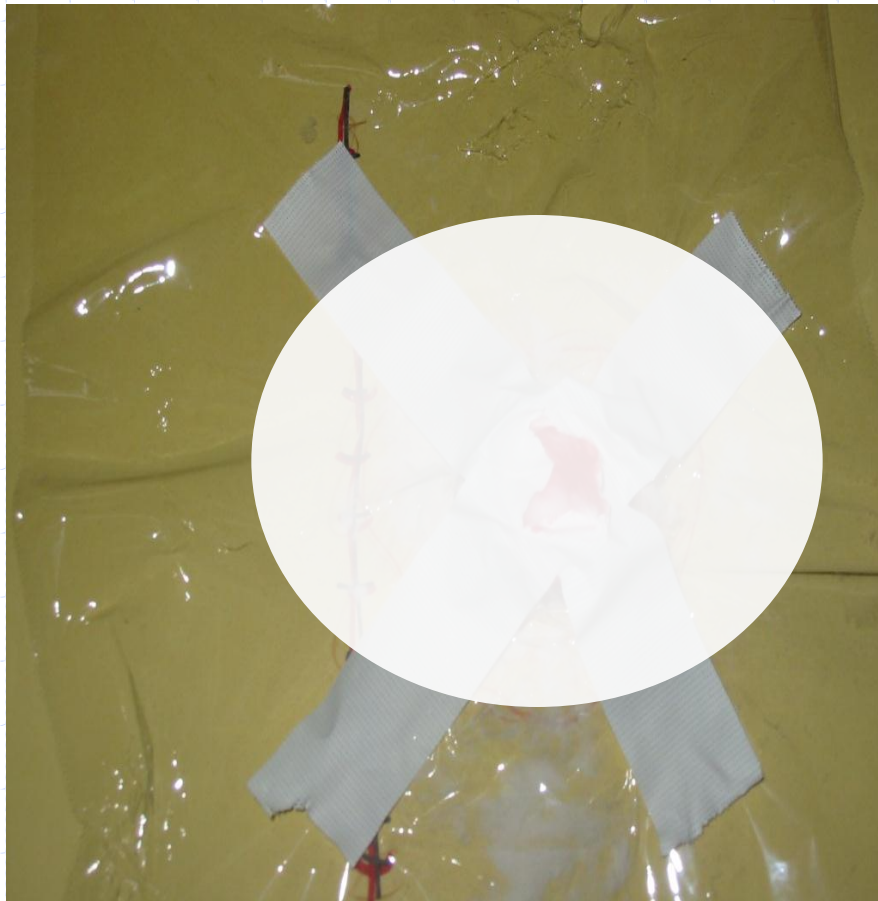
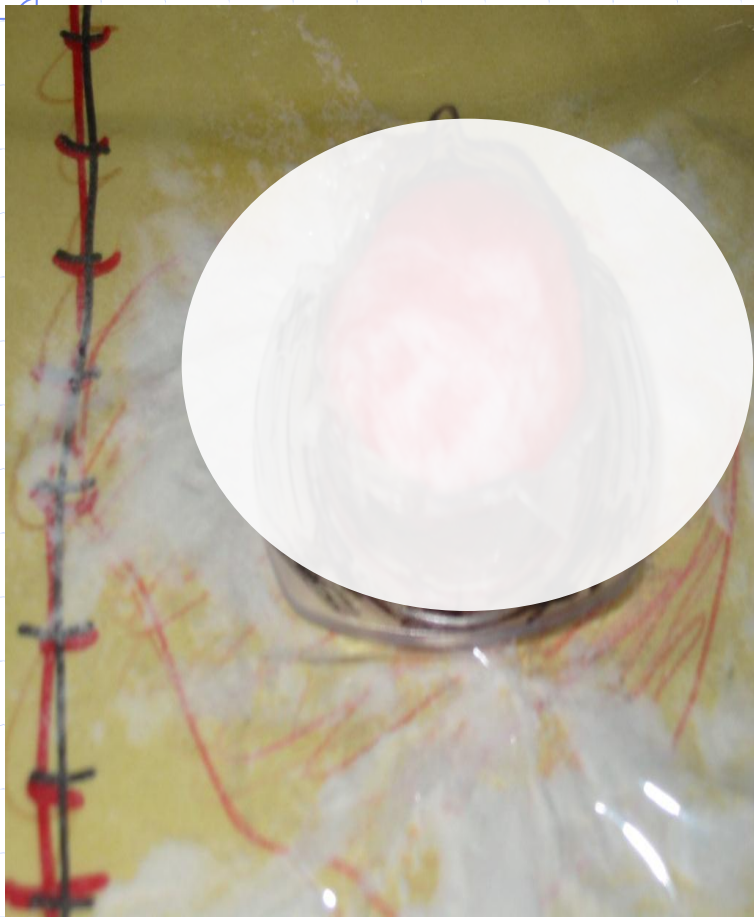
40B

項目 \ 日	10 / 24 (10/24)	10 / 26 (10/26)
ストマ状態	ストマ周囲に腫れあり (全周囲) 4x4cm (浮腫あり)	3.5 x 3.5
ストマ周囲の皮膚	トリアクシ.	トリアクシ.
フリンジの 溶け具合	全周囲トリアクシ.	正中央にトリアクシ.
排泄物	茶色水様便 (9)	茶色水様便 (9)
パウチ種類	ストマック.	2-1000

時間別ガ一ゼ交換回数







12/31~1/25（術後70日目～）

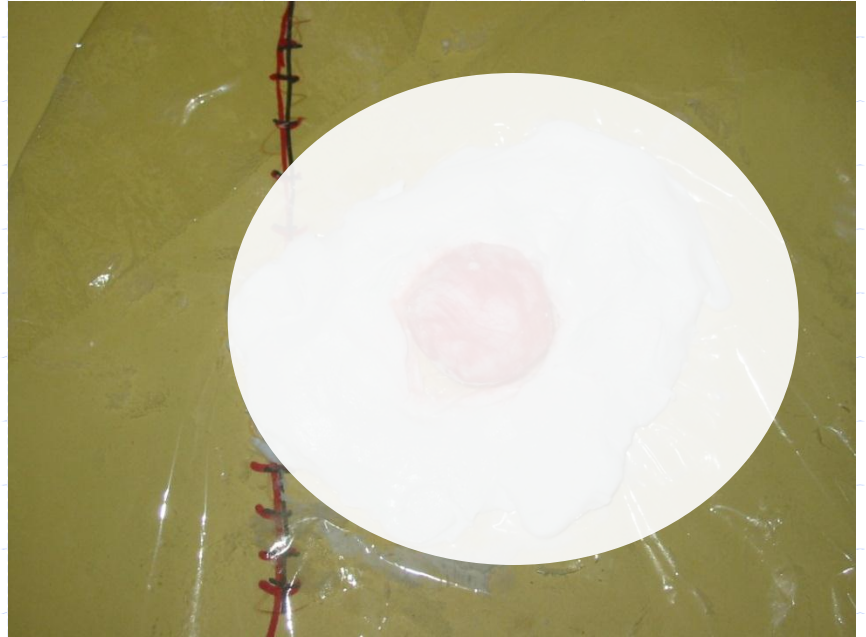
◆看護目標②達成できず

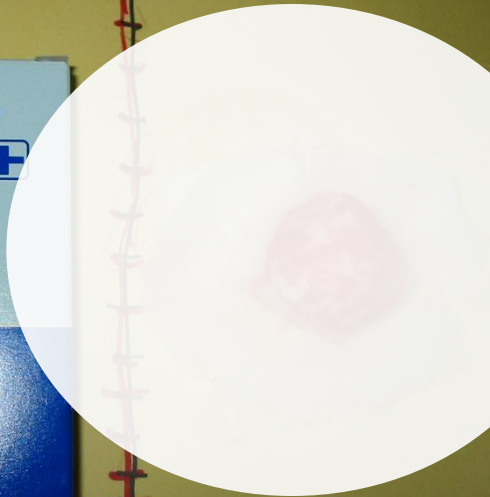
◆疼痛は持続し、程度も変わらないことから、看護師の処置方法にも不満言動があった。そこで、できるだけ日勤・夜勤看護師を固定化した。

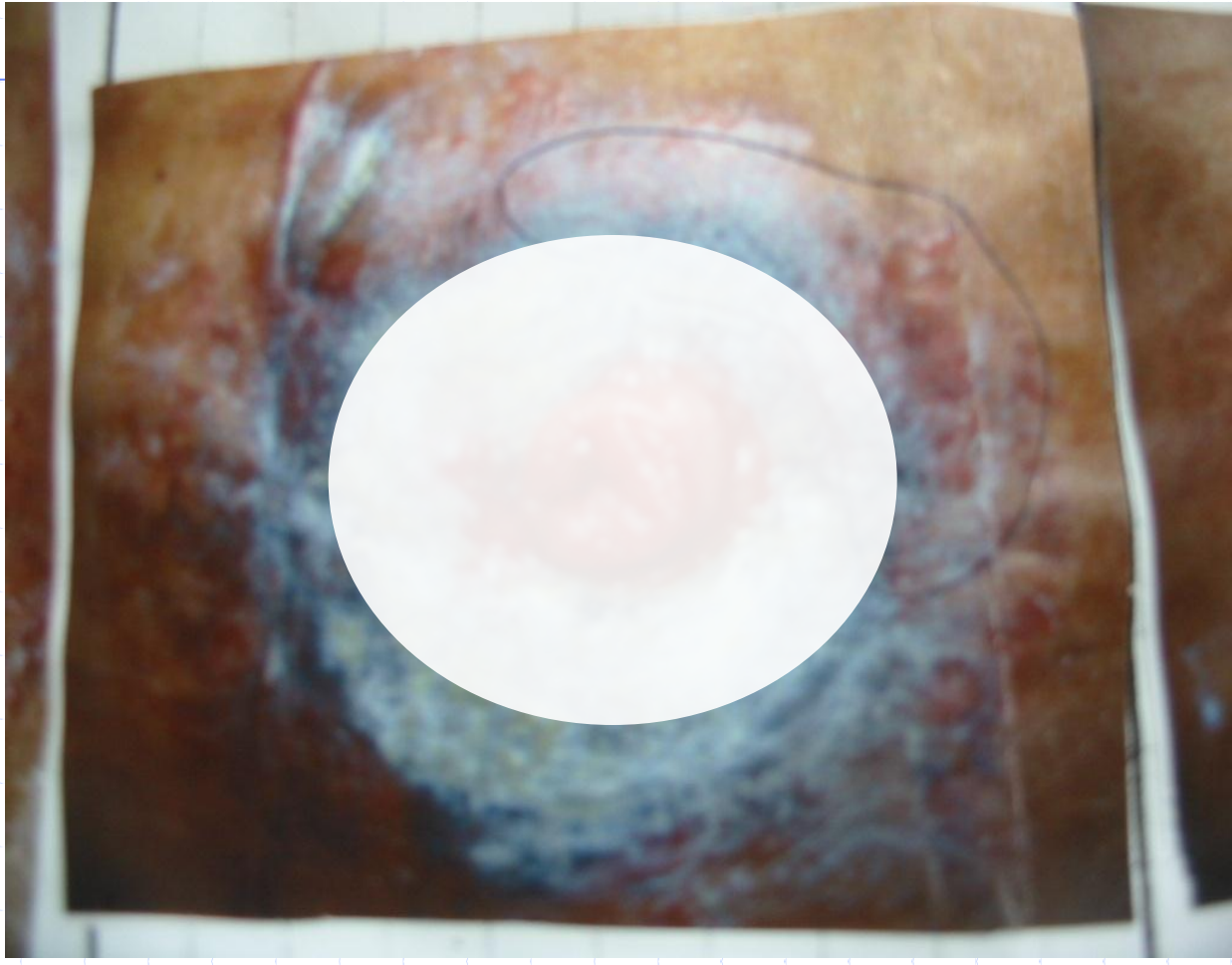
また、処置回数を増やすのではなく、ただれ周囲をコーティングし、皮膚を保護することに重点を置いた。

◆処置での注意点

- ①洗淨のお湯は微温湯
- ②石鹼はしみるため使用しない
- ③ただれに付着した便は、洗い流す程度でこすらない
- ④薬剤が落としきれなくても、無理に落とさない









1/25~1/28 (96~99日目)

- ◆ 痛みの軽減に伴い、以前に比べ活気が出てきた。退院に向けての不安はかなり強かった。
- ◆ 目標③は達成に至らず、ストーマパック貼布せず自宅退院決定する。処置内容は娘たちと患者に説明した。

まとめ・・・

- ◆この発表にご協力頂いたスタッフの皆様に、感謝いたします。
- ◆御清聴ありがとうございました。